

## 第 8 回 亀山市総合計画審議会 議事録

開催日時	平成 28 年 11 月 28 日（月） 14：00～16：00
開催場所	亀山市役所 3 階委員会室
議事項目	<p>1. 会長あいさつ</p> <p>2. 第 2 次総合計画の総括審議</p> <p>(1)基本構想について</p> <p>(2)基本計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○戦略プロジェクト関係</li> <li>○各基本施策関係</li> <li>○成果指標関係</li> </ul>
議 事	<p><b>1. 会長あいさつ</b></p> <p>【会長よりあいさつ】</p> <p><b>2. 第 2 次総合計画の審議</b></p> <p><b>(1)基本構想について</b></p> <p>【事務局より資料説明】</p> <p>（会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 審議会からの意見でかなり修正していただいた。反映がやや薄いと思われる箇所は網掛けをしてあり、No.6の都市空間形成方針図で「近年の用途地域以外での大規模開発を図上に明記する」については、改変できないということだった。この点は、「都市空間形成の方針」で、用途地域の外に新たに大きな開発をしていくという方針ではないので、大規模開発を図上に明記するとそのような誤解が生まれると理解したので、事務局のご提案通りで良いと個人的には思っている。</li> </ul> <p>（委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 会長が仰ったように、審議会の意見を取り入れてくれていることについては敬意を表したいと思う。特に、認定子ども園を取り入れていただいたこと、「緑の健都」に対し、リード文で適切に対応されていることを強く感じた。一方で、少しどうかということを一、二申し上げる。</li> <li>● 13 ページ、中段に「地域まちづくり協議会の市全域での設立という成果を生み出しました」とあるが、まだ「成果」という言葉を使うには至らないのではないかと思うので、「設立することが出来ました」ぐらいにとどめたほうが良いのではないかと思う。</li> <li>● 18 ページの方針図、私たちは回を重ねているので、これが何であるか理解しているが、初めて見た方はこの図だけでは何を言っているのか分からないのではないかと思う。都市空間形成の方針の 6 つの基本的な考え方等を地図上に表したものであることの説明文をこの A3 の中に書き込んでいただくと、これが作られた経緯等がよく分かるのではないか。</li> </ul> <p>（会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一点目の「地域まちづくり協議会の市全域での設立という成果を生み出しました」のところだが、「成果」と言ってしまうと良いのか、設立されたのは確かなので、「設立することが出来ました」という表現に変えたほうが良いのではないか、というご意見であった。</li> </ul> <p>（委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 設立を「成果」とも取れると思う。基本条例が出来上がって、色んなことが成果され</li> </ul>

てきているという意味とすればまだまだかもしれないが、設立という成果、4年近く議論してきた中に於いてやっと設立されたという評価だと私は解釈している。

(会長)

- ここは条例を読むと、実現したいことが沢山あり、着実に出来るところから実現していくということだと思うが、単純に「成果」と書いてしまうと全部達成できたという誤解が生まれる可能性もあるので、ご提案の通り「設立することが出来ました」、あるいは、他にもまだ沢山課題があることが分かるような表現にしたほうが的確である。表現は事務局に任せるので、対応をお願いしたい。
- 18 ページ、確かに何の図か説明がないので、ご提案の通り、16,17 ページの内容を地図上に示したものであるということを注釈として加える必要がある。16,17 ページにも、18 ページに図として表現されていることを書き、相互に関係していることが分かるようにするのが良いかと思う。

(委員)

- 11 ページの「健都」はとても良い名称だと思う。
- 6 ページにも「健康都市としての歩み」とあるが、これは、健康都市連合に加盟しての健康都市としての歩みで、「健都」としての「健康都市の歩み」ではないと思う。同じ「健康都市」だが、11 ページはカギ括弧がついているから、亀山市が付けた「健康都市」、両方を含めた「健康都市」で良いかとも思うが、6 ページは、亀山市が考える「健康都市」としての歩みとは違う、一部かと思う。

(会長)

- 6 ページのほうは健康都市連合に加盟したということと、地域包括ケアシステムの構築や在宅医療連携システムの立ち上げという、個人の医療、健康に関することを含んでいる。健康都市連合で使っている「健康都市」は、かなりここで言う「健都」に近い。人それぞれのこと、都市としての健全性も謳っているの、そういう意味ではあまり矛盾はない気もするが、もし修正するならば具体的には。

(委員)

- 具体的にはない。この「自然・歴史・産業が調和した『まち』」の健康というには、狭い範囲かとは思った。「健都」がとても良い名前だと思ったので。

(会長)

- おそらく 11 ページの記述より 6 ページの記述に問題がある。「健康都市としての歩み」は結局「これまでの歩み」である。健康都市連合に加盟して色々やってきたことを基礎にして、今回大きなスローガンとして「健都」というものを出している。

(副会長)

- 「健康都市としての第一歩を踏み出しました」を抜いて、「挑戦を始めました」にし、「健康都市」は 11 ページで使えば分かりやすい。前回は健康都市連合に加盟したという事実を書けば良いだけの話で、それを大きくイメージ化したのが「健都」である。

(会長)

- 2025 年問題は、ここまで始めているということであるので、「健康都市としての第一歩を踏み出す」を削除したほうが、むしろ良い。今までやってきたことは確かだが、改めて今回スローガンとして出すので。ここまでのまとめだが、6 ページ、「健康都市としての第一歩を踏み出す」という表現をやめて「取り組みへの挑戦を始めました」に止めるというご提案があった。
- 13 ページ、地域まちづくり協議会の設立という成果だが、これは他にもやるべきことが沢山ある中で設立という一部の成果であることから、成果の第一歩、あるいは「設

立することが出来ました」など、表現は事務局に任せるが、誤解がないように修正していただく。

- 16～18 ページは、文章と図の対応をしっかりと付けるということで、16 ページにも図を参照するように示すとともに、18 ページにはこの図が 16,17 ページの内容を地図上に示したものであることを文字で明記する。

## (2)基本計画について

### 【事務局より資料説明】

- 戦略プロジェクト関係

(会長)

- 審議会での意見を踏まえ、防災のテーマを独立した戦略プロジェクトとして立ち上げてくださったし、その他基本的な考え方をきちんと整理していただいたと思う。ただ、具体的な内容を見るのは初めてなので、審議を行いたい。

(委員)

- 6ページ、「ふるさと向上プロジェクト」の一番下段に「シビックプライド」という言葉が初めて出てきているのでこの用語解説はぜひ入れていただきたいと思う。
- 7ページ、「子育て世帯の定住を加速させます」とあるが、「定住を加速させます」という日本語は成り立たないと思う。

(事務局)

- 子育て世帯の定住を増やしていくというところを意図した表現である。表現の適宜については検討させていただきたい。

(会長)

- 「定住人口を増やす」、「定住を促進する」などでどうか。
- 6ページの「シビックプライド」の用語解説と、7ページの「定住を加速させる」という表現の修正、この2点をお願いしたいと思う。

### 【事務局より資料説明】

- 各基本施策関係

(会長)

- 参考資料に審議会から出した意見と対応をまとめていただいているが、網掛けがない部分については、提案通り修正していただいたものである。網掛け部分は、検討の結果、必ずしも審議会が提案したようにはいかなかったところであり、それなりの理由や対応について書かれている。特にこの網掛け部分を中心に審議したいと思う。私から一点、6ページ、「交通拠点生を生かした都市活力の向上」の指摘 10、木材の循環利用について、「木質バイオマス燃料への利用促進を主としていることから、変更しない」ということだが、そもそもバイオマス燃料にいきなり行ってしまうところが問題だという指摘だが、それは変えられないという理解で良いか。

(事務局)

- 委員からカスケード利用やマテリアル利用という意見もいただいたが、市の施策として進める部分については、地域材の、特に商品にならない木材を木質バイオマスの燃料として使っていきたいという主旨なので、今回の場合は「木質バイオマス燃料への利用促進」と書いている。

(委員)

- 68 ページの「現状と課題」に鈴亀道路が入っているならば、1号線バイパスの整備も市長が会長でやっている事業なので、入れたほうが良いのではないかと。

(事務局)

- 1号線バイパスの整備自体は、24,25 ページの「道路の保全・整備」で施策としては書いている。68,69 ページは「広域的な交通拠点生の強化」の部分なので、1号線バイパスの整備はその色合いが薄く、どちらかと言うと中の部分が強いの、こちらには書いていないという状況である。

(会長)

- 68 ページの「現状と課題」は国道1号のバイパスが書いてなくても良いかもしれないが、69 ページの「広域道路網の強化」のところでは、「新名神の早期整備の促進」と「鈴亀道路の整備に向けた取り組み」とあり、こういった広域的な道路網と国道1号線バイパスなどのローカルな道路をうまくネットワーク化することを分かりやすく書くということが必要かもしれない。

(委員)

- リニアを見据え、西名阪も東名阪も 306 も色々な道路が広域的に、総合的に、考えていかなければならないのではないかという思いがある。

(会長)

- 確かにそうである。骨格的なものについてはそれを推し進めることは大事だが、その他の道路との関係を含めて総合的にネットワークを作っていくということがメッセージとして出ていたほうが良い。検討をお願いしたい。

(委員)

- 44,45 ページ「健康づくり・地域医療の充実」、ここのテーマで大事なポイントは、医療センターの利用率、医療センターがいかに機能しているかということだと思う。成果指標として、がん検診の受診率と医業収支比率が出ているが、医療センターを年間何人利用しているか、それを向こう何年間で何人にするかというところが、一番大事な押さえどころではないか。

(会長)

- 医療センターの利用状況に関するこれまでの推移、あるいはそれに基づく今後の目標を設定すべきということか。

(委員)

- そう思う。現しづらいところがあると思うし、苦しいところもあるだろうが、やはりそれを目標にしないと医療センターそのものが改善・向上しないと思う。

(会長)

- 医療センターの状況について、色々あるようだが、どうか。

(委員)

- 昨今はベッド数も増え、亀山市は今 100 あるが、今までは医師会との関係で半分しか使えないということがあったが、現状は全部使っても医師会からは何ら問題はないという話があり、これからは法律がだいぶ変わるし、地域包括システムという形が非常に大きい。確かに、委員が言われたように、医療センターに整形や眼科の良い先生がいるときはものすごくお客さんが来るが、転勤されると全然来ない。それが非常に大きな問題になっているのではないかと思う。もう一つは、医療センターで働いているときはお客さんが来なかった先生が、開業すると一月も二月も前から予約しないと診

られないという現状がある。それは、需要はあるということである。医療センターは5時になったら救急車でも受け付けない。そのところが、親方日の丸という感じがあるのでやめるように、私は医療センターの方向性委員会で言った。だから、医療センターの利用率については出ている。

(副会長)

- 書こうと思えばかけるということか。

(委員)

- そうである。何年何月にどれだけ入院してベッド数がどれだけだと、全部、HPに出すと言っていたので、行政が聞くことも出来る。

(委員)

- その点、事務局の考えを質したい。

(事務局)

- 医療センターの事務局も、指標として利用人数が良いのではないかとすることは認識している。その上で、医療センターは今、統括管理者を置いて経営の健全化のテコ入れをしているので、その指標を置きたいというのが医療センター事務局としての結論であり、どれだけ健全な経営で利用者に来ていただくかという視点で医業収支比率を書いている。委員が仰ったように利用人数も当然把握はしていけるので、どちらでも可能だが、担当部署と調整した結果、医業収支比率をご提案させていただきたいというところである。

(委員)

- 今のは、私たちの質問に答えていない。

(事務局)

- 「救急搬送の市内医療機関受入率」については、市内の救急告示病院として実質受け入れているのは医療センターがほとんどである。地域医療の括りなので医療センター受入率とは書いてはないが、市内で救急患者が発生したときにどれだけ市内の医療機関で対応できるか、という意味で置いている。利用人数そのものが、本来は公立の医療機関であるという意味からは良いと思う一方で、緊急対応するメインの病院でもある医療センターと、それを中心とした受入率が半分は市内で救急対応できるということで、経営健全化のお金の面と、医療の面としてはそういう意味合いから「救急搬送の受入率」を挙げている。

(委員)

- 緊急搬送の率、これは先ほど私が質問したこととはまた違う次元の問題である。やはり、病院を評価する一番分かりやすいバロメーターは、ズバリ、儲かっている、儲かっている、何人来ている、来ていない、だと思ふ。この中にはお金のことは載っているが人数は書いていない。この部分についてだけ一丁目一番地の成果目標が出てきていない、というところに疑問を持ったのである。

(会長)

- 医療センターの改善計画であれば当然そういうことも書くだらうが、総合計画では、実質医療センターが救急対応の病院としては一つだけでも、市民生活から見たときの指標となると、必ずしも医療センターの改善のことではなく、市民ががん検診を受けているかとか、何かあったときに救急車で50%くらいは市内で対応してもらえるかどうか、そういう市民目線の指標が結果的に並んでいるのだと私は理解した。医療センターについては、もう一度事務局で議論はさせていただきたいと思う。結果的になかなかそういう指標を設定することは難しそうだと分かったが、意見が出たので、ご確認

いただきたいと思います。

(副会長)

- 5ページ、ページ数は50,51の「障がい者の自立と社会参加の促進」で、これは修正を行わないと言われたが、どう読んでも、言っていることの基盤整備の促進と意味が違うような気がして堪らない。これは、②「障がい者の福祉サービスの充実」の二つめ「障害のある人が住み慣れた地域で生活できるよう、居住の場としてのグループホームや緊急時に受入可能な短期入所施設などの基盤整備を促進します」のところだと思うが、「障害のある人が自立した生活を送るためのハード整備」が、これを指しているとは捉えられない。例えば点字ブロックを置く、トイレなどを車イスが入れるようにするのもハード整備であり、亀山はすべて出来ている、ということであれば、ハード整備と書かなくても良いと思うが、駅前から目の不自由な方の歩く道を行くと、近くの横断歩道の手前でバリバリに割れているところがいくつか存在している。そういったものをこの整備として考えなくて本当に良いのか。「弱者に優しいまち」は、亀山市が一番売りにしなければいけないものだと思うが、グループホームや緊急時に向けた施設だけに基盤の整備をせよということではないのではないか。他のところでやっているのだから、ここには入れないということかもしれないが、多少疑問がある。

(会長)

- 仰る通りで、いわゆるユニバーサルデザインの話だが、ユニバーサルデザインはどこか他のところに入っていたか。

(事務局)

- 18,19ページ「都市づくりの推進」で、19ページの③「魅力的な都市の形成」の1つめに入っており、都市全体のユニバーサルデザインはこちらで書いている。どちらに書くのが良いかは検討の余地があると思う。

(副会長)

- 公的な場所でユニバーサルデザインということではなく、身近な地域で、弱者が幸せに生きていける場所を目指しているというのが亀山の姿勢だということを明確に地域力や市民力で謳っているのだから、その部分についてのハードは一体何かを考えることは、福祉を担当している者の役割として当然のことである。そこが抜けていることに関して疑問がある。

(会長)

- 19ページは確かに、都市づくりの中で公共空間のユニバーサルデザインをやるのは当たり前だが、民間施設への推進等は、やはり「障がい者の福祉サービスの充実」のところに書くと分かりやすいという感じはする。19ページに含まれていそうだが、ここはあくまでも都市づくりの内容なので、重複しても構わないので51ページにも別のハード整備について載せることも検討いただければと思う。

(委員)

- 6ページ、一番下の「ふるさと亀山を愛し」のところで、「それぞれの地域の特性を生かした小中学校での学び」とあるが、「高」が抜けている。県立の高校もあり、今までの亀山の学びの特色、師範も女学校もあったし、市民会議のキャンプでも高校生がボランティアで入っているので、そういう言葉を入れていただきたい。全体的なことだが、それによって活性化にも繋がっていくのではないかと感じる。

(会長)

- 県立だから書きにくいかもしれないが、市内にある高校なので、ご検討いただきたい。
- ここまで出てきた指標以外のところの意見を振り返ると、資料2で行くと、45ページ

で、医療センターの利用状況や人数についての指標があったら良いのではないかという意見があり、ここは、これまでの経緯も聞いているので難しいかもしれないが、再度審議会ですういふ意見が出たということでご検討いただければと思う。

- 51 ページ、「障がい者の福祉サービスの充実」で、点字、トイレの作りなどのユニバーサルデザイン、その他色々なハード整備を公共空間に限らず、民間施設に対しても働きかけていくということを書けないかというご意見があった。
- 68,69 ページ、「広域的な交通の拠点性の強化」で、道路に関しては新名神や鈴亀道路について書かれているが、それらと国道1号バイパスなどのその次のランクの道路網についてもきちんとネットワークで考えなければいけないので、言及して、その道路を総合的に良くしていくということを書いてほしいということである。

【事務局より資料説明】

○成果指標関係

(会長)

- 総合計画にはこういう一覧表はつくのか。

(事務局)

- この資料自体は、本冊の中ではなく資料編という形で補足するものとして置かせていただきたいと思っている。

(会長)

- 資料3のどこからでも結構なので、指標について何かあればうかがいたいと思う。

(委員)

- 基本計画等々は、今まで審議にかかっていたので大変醸成されていったと思うが、この成果指標は、初めてこういう形でオープンにされた。故にまだ議論が足りない、もしくは甘いところが多々見受けられる。数点あるが、一点だけ申し上げる。あとは資料でお出しする。
- 5ページの「市民力」の一番上、「地域まちづくり計画に基づき事業を展開する地域まちづくり協議会の数」という成果指標が、現状値3地区、目標値22地区、これは今現在のフルだが、とされている。達成年度は33年度末。まちづくり協議会は現実には動いているので、そこで今計画を作ってという仕事をしていると思うが、本当に33年までズルズル計画を立てずにやっていった方がいいのか。すなわち、この計画を早急に立てて展開していかなければならないものを、33年度までにやれば良いと捉えられるが、設定がおかしいのではないか。少なくとも1年2年で計画は作って、それによってローリングしてくださいというなら分かるが、33年度までに22地区歩調を合わせるという目標設定は、少し勘違いをしているのではないかと思う。

(会長)

- 目標としては厳しすぎるか。

(委員)

- 厳しすぎるではなく、甘すぎる。

(会長)

- 今、地域まちづくり計画は、すべてのところで策定されているわけではないのか。

(事務局)

- 27年度末の段階ではまだ3地区だけである。

(会長)

- 計画を作るといふ話と、計画に基づいて様々な事業を展開するといふ話は分けて考える必要がある。今の話だと、まだ計画も作れていないところが多いから、まずはいつまでにどれくらいやるのかという指標があつてしかるべきであつて、その後の展開として、それに基づいた事業をどう展開できるかといふことの指標があるべきなのではないかと思つたのだが、私の認識が違ふかもしれないが、どうしたら良いのか。

(委員)

- 元々はまちづくり協議会というグループが、今現在3地区であるのを22地区にするという形で長年走つてきた。それを33年までにもう一度22地区と書いてあるように思つたのだが、事務局の説明では、22地区はある、その22地区がそれぞれ自前の計画を作りそれを展開する作業に入るが、それができているのは現在3地区である、といふことである。33年度末までに22地区全部が足並み揃えましょうといふのが、この目標である。私の意見は、もう次年度には計画ぐらひはつくつて、PDCA回していかないといけないのに、こんなに先に目標を置いて良いのかといふことである。

(会長)

- 私はどちらかといふと計画づくりが大変そうだから22地区やるのは大変なので、15くらいで良い、とか、そういう意見かと思つたが、逆であつた。私は地域の現状を良く知らないが、どうか。

(副会長)

- まず、3地区かもう一回確認していただきたい。6月頃に、担当が計画を作つてほしいといふことをまち協に流した時点では3ではなかつた。そのときには、ここ1~2年の間には全部作つてほしいといふ言い方をしていた。

(会長)

- 今ご提案の指標は、あと1~2年で計画は出来て、その計画に基づく事業がすべての22地区で展開されているといふことで良いか。

(副会長)

- もう一つ問題があり、書いてある事業の計画を5カ年計画で最初立ててほしいといふ依頼があつたが、途中から10年計画に変えている。そういった混乱も色々あるようなので、ここに計画を載せるのであれば、一体何と何をすればこの指標に合致するのかを明確に各まち協に言つていただかないと、現段階ではバラバラである。

(委員)

- 補足する。副会長が仰つたように、中でも5年も先では状況が変わるといふ意見も出た。3年など期限を切つてはどうかといふ話も出たが、担当部署が濁して、5カ年計画、10年計画で作つてくださいと。正直なところ、設立に力を注ぎすぎているので、計画については「そんな話があつたのか」と慌てて計画を作つており、私どものほうもほとんどのところが今年度中に計画づくりの半分くらいは進んでおり、本年度計画といふことで総会にかけなくてはいけないので、承認していただくための作業を進めている。私も33年では遅すぎると思ふので、5カ年計画という形から33年と書かざるを得ないが、「前倒しも含めて」などの言葉を入れておけば良いと思つている。

(事務局)

- 副会長が言われた現時点で3地区といふのは、時点の差もあり、私どもは27年度時点での計画策定数と、そこから、といふことで、それからその後の話の、5カ年で22で良いのかは、担当部署がまち協に話している1~2年で作つてほしいといふことや、それが5年スパンか10年スパンかといふところが少し曖昧なようなので、確認した上で整理させていただきたいと思つている。



(委員)

- もう一点、条例には小学校区概ね一まち協と書かれている。そういう条例があるにもかかわらず、5年先も22で良いのか。11にすべきではないか。

(事務局)

- 確かに小学校区単位と条例の基本の部分として書かれているが、今年度、本当に地元の皆さんに協力いただき、やっと全地区で立ち上がったところなので、その枠組みをいきなり変えることはできない。現段階ではまずは地区の計画を作り、計画に基づいた事業が展開されていく、意識の醸成なども含め、前期の5年はそこをやっていくべきではないかと考える。その目標設定の甘い辛いについては整理した上でと思っているが、地区編成までは前期の5年ではできないと考えている。

(委員)

- 良く解った。ただ、条例というのはそんな甘いものではない。皆さんが議論して議会で議決して、亀山のバイブルになっているのである。それを向こう5年間そこへ手を着けずに放っておく、この心は正直言って理解しがたい。

(会長)

- 私から一つ。1ページ、「都市づくりの推進」の一つめと三つめ。まず一つめの先ほど例でご説明いただいた「立地適正化計画における都市機能誘導区域内への都市機能立地件数」で、6件と書いてあるが、「都市機能誘導区域内への都市機能立地」というのは定義が良く解らない。都市機能は色々あり、これは施設を意味しているのか、あるいは補助金を使った施設の部分なのか、良く解らないので、定義を明確にする必要がある。それから、この都市づくりの話は相対的な話で、都市機能誘導区域内に都市機能が充実することを進める一方で、都市機能誘導区域外の商業立地などをある程度抑制しないといけないので、区域の中のことと外のことを相対化した指標にしないと、あまり意味がないと思う。区域内に6件あったとしても、区域外に100件あれば、まちとしては郊外に分散してしまっていることになるので、その指標の工夫が必要だと思った。
- 三つめの「人口集中地区の人口密度」、これはいわゆる DID と言い、定義では1ha当たり40人以上住んでいるところを人口集中地区と言っていて、亀山市は既に下回っている。コンパクトなまちをつくるという意味で、居住誘導区域で人口密度を増やすようにしておかないといけないが、少しあやふやになっている。平均してしまうところなるのかもしれないが、人が特に中心部や駅周辺に集まって住むということを目指しているので、ここは人口集中地区ではなく、立地適正化計画の居住誘導区域の指標にしたほうが良い。この辺は都市計画のテクニカルな話なので、都市計画室の方にご相談いただきたいと思います。もし何か、今の時点であれば。

(事務局)

- 具体的な内容については、確認の上で整理させていただきたいと思う。

(副会長)

- 72ページの教育の部分の指標だが、「学校評価アンケートにおける授業理解度」と「学校評価アンケートにおける学校満足度」、「授業の理解度」が88%、83%、「学校満足度」も91%、91%とあるが、どういうアンケートなのか。「授業の理解度」はどう表すのか。子どもに聞いて「理解できた?」「はい、理解できた」で丸をつければ数が増えていく、という程度なのか。分からないものがこの中に入るのは、いかがなものか。80%台くらいにしておかないと、60%、50%では、あとの50%は満足していない子どもがいるではないかと言われるのが嫌だという気持ちも分からないではないが、それ

であればこういう指標は使わないほうが良いのではないかという気がする。

(会長)

- アンケートの聞き方も信頼性の問題で、こういうアンケートも無意味ではないと思うが、市の施策を裏付けしようとして使うことには懸案を感じる。

(副会長)

- 一つの学校でのアンケート調査では足りないので、亀山全体でやるといっても、すべてを均一に、公平性を担保した上でやるというわけにはなかなかいかない内容であるし、聞き方や文章の出し方によっても変わってくるので、これを5年後の目標にするというのはいかがなものかという気がする。

(会長)

- 大学でもこういうアンケートがあり、授業の担当者がそれを見て反省するわけだが、アンケート結果の数字そのものではなく、それに基づいて教員が次年度に向けてきちんと改善しているかどうかというFD、ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development) と言うが、そういう取り組みをやるかどうかのほうが重要かもしれない。今、アンケート結果に基づいて何かをしているかは分からないが、そういうものをやっているならば継続するという指標でも良い。今は答えられないかもしれないので、こういう意見が出ているということで、お願いしたい。

(委員)

- 資料になかったもので、気になったことを一点。1ページの下から三つめ、「市コミュニティ系バス等の利用者数」で、99,000人から102,000人という設定になっている。財政改革の中でもこの議論があり、公共交通もコミュニティバスではなく、乗り合いタクシーやオンデマンドなどを研究しようというところまでは出ている。コミュニティは何らかの形に置き換えていかなければいけない、それが大きな命題になっている現状において、5年も先までコミュニティバスを置いておいて、人数を増やせと言っても増えない。財政改革のほうでも議論しているので、整合するというか、やりとりしたほうが良いのではないかという意見である。

(会長)

- 気になったのだが、「市コミュニティ系バス等」の「等」とは何か。ここに、例えば乗り合いタクシーなどが入っているのならば、それにしても99,000から102,000をどのようにカウントするのかなど色々問題があると思う。
- 意見としては、コミュニティバスだけで良いのかという問題と、乗客数をこんなに増やすことは現実的かどうかということである。

(委員)

- 今「等」という言葉が出てきたが、今現在乗っているのはほんの少人数だと仰るが、これからの世の中、今、老人の交通事故が多いので、そこで何か本部は考えているのかと思っていたのだが。例えば免許を返したらバスを使うとか、そういうふうに用いるのかと。「等」というのは大きい。

(事務局)

- 「等」と今の行革の関係の、この後どうしていくか、コミュニティバス、相変わらず人数を増やしていく方向で行くのかも絡めて確認をさせていただきたいと思う。

(委員)

- 別に増えなくても良いのではないか。普通、車に乗れない方など不自由な方が利用されるので、あまり目標を大きく立てることもないのではないか。

(会長)

- むしろ乗りたい人が乗れるかどうかの評価のほうが大事である。

(委員)

- 車イスの人はバスに乗れない。

(委員)

- その上の JR の乗降人員も、JR が調べている人数であって、やはり駅前などの開発を亀山市として大きく挙げていくのであれば、こういったものは載せなくても良いのではないか。3,400 人というのも、亀山駅だけしか見ていないのではないか。

(事務局)

- 市内 JR 駅の 5 駅の 1 日の合計になる。

(委員)

- 目標も 3,402 人から 3,400 人、5 年間で 2 人の動きだけである。

(会長)

- 目標が 2 人減ったことになっているが、維持ということで、切りの良いところで 3,400 人。どんどん減る傾向なので、減らさないようにするという意味である。コミュニティバスも無理して増やさなくても、必要な人がきちんと乗れるようにしておくことが大事、というご意見だった。一旦指標を設定すると、それを達成しないとダメとか、数値を達成することが目的になってしまったりするので、本当に大事なことは何なのかを考える必要がある。
- 「低炭素・循環型社会の構築」のところ、2 ページの上から四つめ、「地球温暖化対策に関するイベント等への参加者数」とあるが、イベントに参加しなくても地球温暖化の防止に向けてやるべきことをやっている人たちはいるので、これしか指標がなかったのであれば仕方がないが、例えば毎年の電力やガスの消費量を省エネして、減らしている人の人数とか、あるいは運動としてやっている取り組み状況を指標にしても良いと思った。イベント参加が何人とか何団体とか、他のところでもあったが、イベント疲れしてしまっている部分があり、他の指標があるならイベントへの参加人数というのは、指標としては減らしたほうが良いと思う。例として出した。

(委員)

- 同じような見解を持っている。イベントなどというものは、やりようによっていくらでも増やす方法があるので、そこにこだわるのはどうかとは、私も感じている。

(会長)

- イベントを市から仕掛ける、あるいは市が他の団体と協働してやるわけだが、それをきちんと続けていくということなのかもしれない。指標のところ随分意見が出たが、時間も迫ってきたので、ぜひこのことは言っておかなければいけないということがあれば、お願いしたいと思う。

(委員)

- 全くこれ以外でも良いか。

(会長)

- まずは指標のところ追加のご意見があれば、よろしいか。では、さん。

(委員)

- 事務局にお聞きしたいのだが、フィルムコミッションについて、熱海は職員一人で非常に成果を上げているということだが、一時市でそのような話があったが、これから進めて行かれるのか。

(会長)

- フィルムコミッション、やるのであれば総合計画に書いてあってもおかしくない。

(事務局)

- フィルムコミッションの話は私どものほうではあまり聞いていない。観光分野か。

(委員)

- 観光であろう。映画のロケやテレビのまちなみ紹介など、これからどんどんされるのか。

(委員)

- 私が数年前文化会館でお世話になっていたときに、FC は話としては出ていた。ただしそれは公ではなくて民で、有志でという話であった。

(事務局)

- これも施策の中で、担当部署の確認もさせていただきたいと思うので、もしそういう考え方があればまた改めてお示しをさせていただきたいと思う。

(会長)

- 指標のところは、熟度が他の部分と比べると低いので、全体的にもう一度見直し、今から申し上げる点は、審議会で意見が出たので重点的に見ていただきたい。
- 1ページ「都市づくりの推進」の一番目と三番目については、立地適正化計画制度の都市機能誘導区域と居住誘導区域を指標のターゲットとして、区域の内外の比較をしないといけない。人口集中地区の定義と矛盾するような書き方は避けていただきたい。
- 同じページの「公共交通網の充実」で JR の駅の乗車人数とコミュニティ系バス等の利用者数とあるが、乗客数を増やすことは難しい状況の中で、必要な方がきちんと乗れることが大事なので、別の指標があればそのほうが良い。バス以外の手段についても検討しているようなので、それに触れることが出来ないかという意見もあった。
- 2ページの上から四つめ「地球温暖化対策に関するイベント等への参加者数」、例として私が申し上げたが、この他にもイベントへの参加者数や参加団体数というものがあるが、あまり本質的ではないので、もう少し中身のある指標があればお願いしたい。
- 5ページ「子どもたちの豊かな学びと成長」で、四つ、学校評価アンケートに基づく指標が設定されているが、このアンケートそのものが、設問の仕方や児童生徒がどう答えているかを考えると、市の施策を左右する指標としては信頼性に欠けるのではないかという意見があった。例えば、アンケート結果に基づいて、教員が振り返って次年度への改善をしているかという指標、ファカルティ・ディベロプメント、でも良いかもしれない。
- 同じく5ページの「自立した地域まちづくり活動の促進」で、地域まちづくり計画に基づく事業の展開に関する指標で、現状値は平成 27 年度末現在の「3 地区」だが、今現在随分進んでいるようなので、その最新情報を入れても良いかもしれないし、計画づくりは平成 33 年度末と言わずもっと早く展開すべきものなので、それをうまく書き込めないかということである。この辺は確認、整理していただくことになった。
- 今日、実質最後の審議で沢山意見が出たが、概ね今まで議論してきた内容は対応していただいております、さらに気づいた点がいくつかあったということだったと思うので、前回と同様、検討し、修正出来るところはしていただき、出来ないところは理由等をお聞かせいただければ良いかと思う。

(事務局)

- 補足だが、今日説明した前期基本計画の中で、最初に説明した戦略プロジェクト、2～7ページ、プロジェクトの内容を整理してこういう形で行きたいと思っているが、

例えば3ページが一番上「戦略プロジェクト1 健康向上プロジェクト ～『健康』の視点～」とあるが、このプロジェクト名は少しインパクトのあるものにしたいので、来週の最終回に示させていただければと考えている。

(会長)

- 限られた時間の中で集中的に審議いただき、ありがとうございました。次回が審議会の最終回で、その場で市長に答申を行う。本日の意見について私と事務局で調整し、答申案をつくっていききたいと思う。その点について、最後、私に審議会のまとめ役として代表して調整させていただくことについてご了解をいただければと思う。

(事務局)

- 次回、第9回の審議会は、12月7日 17時から大会議室において開催する。ご出席をお願いしたい。第8回の総合計画審議会はこれにて閉会とさせていただく。ありがとうございました。